令和2年度　江戸川区立第四葛西小学校　学校関係者評価　報告書

学校教育目標	○豊かに育つ四葛西っ子 ・元気な子　・やさしい子　・よく考える子　・やりぬく子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○家庭・地域に開き、共に歩む学校 ○友達と共に学級、学年、学校の文化を創り、発展させていく児童 ○組織的に教育活動を推進しつつ、自らの向上を図る教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞新学習指導要領を踏まえた具体的対応策の一つに、教育課題実践推進校として、外国語活動に取り組む、全学級が外国語活動の授業を公開し、研究の成果を発表することができた。家庭、地域と学校のよりよい連携のために、継続した活動を行うことができた。 ＜課題＞引き続き、児童の実態および教育的課題を的確に把握し、新学習指導要領を踏まえて具体的な活動を設定していく必要がある。 さらに保護者へ意識啓発していく。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	中学校との授業参観・意見交換会・・・年間2回	各分科会における実践的な取り組み	B	C	○互いの教員研修を生かした教科指導及び生活指導の共有化	B	次年度も中学校との連携をお願いする	さらなる連携
	グリーンアドベンチャー	様々な樹木とのかかわりを通しての異学年集団交流	異学年集団・・・年間6回 学年・・・年間2回	異学年交流による活動	B	B	○計画的な実施と運営 ●異学年交流の充実	B	グリーンアドベンチャーの継続の希望	樹木の整備と再班編成
教員の資質向上	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上	校内研修・・・年間3回 LINES授業支援・・・各学級1回	ICTによる授業実践	B	B	○授業支援の実施とICT研修 ●ICTを活用した授業改善	B	次年度もICTの活用を期待する。	授業における活用
	特別支援教育の推進	校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実	特別支援委員会　毎月 研修会実施　学期1回	実施回数および研修会への参	A	B	○SCや心理士との連携 ●心理士と巡回指導の連携	B	次年度も情報交換や連携を期待する。	スクールカウンセラー、心理士との連携
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	補習タイム・・・年間35回 都学力調査の到達目標	放課後補習の確保と児童の基礎的な学力の向上	B	B	○補習授業の実施 ●都学力調査目標値到達度	B	基礎学力の向上を期待する。	ベーシックドリルの活用
	読書科の更なる充実	学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実 ・読書科ノートの活用など、探究活動、探究的な学びの充実 ・学校図書館を使った授業の充実	図書館の整備 読書活動への取り組み	図書館での読書活動および探究的な学習	B	A	○自ら設定した課題に対して、インターネットや本で調べ、感想や自分の考えをまとめる。 ●更なる図書館の整備と充実	B	更なる学校図書館の充実を期待する。	スーパーバイザーとの連携
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	休み時間の全校運動遊び・・・週1回	集団運動遊びの取り組み	B	A	○集団運動のバリエーション ●安全な外遊びのバリエーション	B	引き続き体力向上に向けてお願いする。	パワーアップタイムの継続
	オリパラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組やオリパラコーナーの充実	実施計画書に基づく取組み・・・年間35h	ボランティアマインドの育成	B	A	○アスリートによる講話と実技指導 ●日常的なオリパラ教育	A	元記録保持者の方の指導は有意義	パラリンピアの招へいと日常的な活動
	外国語教育の推進	授業力の向上とALTの効果的な活用	公開授業 研究授業・模擬授業	研究授業、模擬授業、公開授業への取り組み	B	B	○教材、教具の整備の充実 ●English Richの更なる充実	A	3年目としての取り組みの成果が見られる。	研究のまとめと継続
	健全育成に向けた取組の強化	いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	生活指導夕会、生活指導部会での情報共有化	いじめゼロ、不登校児童と家庭への対応	B	B	○情報の共有化 ●外部機関との連携	B	対応を期待する。	具体的なアプローチの実践